



相模原殺傷事件あす判決

小説「月」執筆 辺見庸さんに聞く

隠された優生思想の表出

相模原市の知的障害者施設で起きた殺傷事件で、横浜地裁が16日、元職員植松聖被告に判決を言い渡す。検察側の求刑は死刑。事件を契機に小説「月」を執筆、死刑制度に長年、強く反対してきた作家で詩人の辺見庸さんに聞いた。



「月」の表紙

この事件が起きた時、中世から近代、現代に至る人類の歴史の上で、非常に大きな出来事だと直感しました。「人間は平等であり、人権は守られる」「人を差別しても、されてもいいけない」といった言わずもがなの前提が私たちの内面です。それを破綻していったことをあらわにしたからです。

「存在してもいい人間」と「存在してはいけない人間」を識別する。植松被告、私は「さとくん」と呼びますが、彼はそういう論理で重度障害者たちを殺していったとされている。裁判所がもし、死刑判決を下すとしたら、その瞬間に司法は「さとくん」と同じ論理に立っていることを、最も単純な形で証明することになる。

私は「月」という作品で「世の中をよくしなければならぬ」と考える「園」の職員「さとくん」と、目が見えず歩行ができず、しかし自由におもむきでできる入所者「きーちゃん」という人物をつくりました。きーちゃんは痛みの中で「なぜ、在るのか」と考え続けます。私たちが存在してしまっていることは、主體的にあるのではなく「気付いたらそうだった」という偶然によるものです。

偽装

意志とは関係なく「在ってしまう」という実存について、私たちはとりあえず「そういうものだ」と

死刑は被告と同じ論理

引き受けるしかない。他人が「在る」「ない」を決めることはできません。けれど日本社会では長く強制不妊が行われ、今は出生前診断で「命の選別」をしている。「選別」の射程を広げれば、企業では人事評価で「良い社員」かそうでないかをより分けている。強い者と弱い者、美しい者と醜い者、「正気」な者とそうでない者……。あらゆる場所に優生思想が染みわたっている。

ところが日本社会は、重度障害者に優しいかのような偽装をしています。たまにテレビに登場させれば「ハートウォーミング」な文脈に回収してしまう。重度の障害がある人、その保護者が抱える重さはとてつもないもので、それに見合

うリアリティーが番組には全く欠けています。本当は自分の周囲から排除している人、見ないようにしている人々、忘れようとしている人々たちを、「共生」「絆」などと軽々しく肯定する言葉だけはたくさんあります。それはおたまたまごかしというものです。

本音

都合の良いものだけに囲まれて生きていたい、「存



辺見庸さん

へんみ・よう 1944年宮城県生まれ。共同通信社で北京特派員、ハノイ支局長などを歴任し、日本新聞協会賞を受賞。「自動起床装置」で芥川賞、「もの食う人びと」で講談社ノンフィクション賞、「眼(め)の海」で高見順賞、「増補版1★9★3★7」で城山三郎賞。他に「赤い橋の下のぬるい水」「青い花」「純粋な幸福」など著書多数。

ヌーム

「月」 寓意(こころい)に満ちた叙事詩としても読むことができる長編小説。2018年に出版された。物語は「園」に入所する「きーちゃん」の独白を基調に進む。全く動けず、目が見えず、思っように話せないきーちゃんは、自分を見た者が「ありきたりの善意」から発する「おさだまりの文言(オキノドクニ……)や「あからさまな嘆息」で自身の姿を想像する。

「在りつづける」ことを誰かに請われているわけでもなく、誰にも分かってもらえない痛みを抱えながら「在る」ことを考え続けるきーちゃんは「だれよりもそっちょく」な職員「さとくん」に心を許している。だがさとくんはある日「敵対者」の空気「をままとってやって来る。

文化短信

小野さんに

吉川文庫賞

吉川英治賞(吉川英治国民文化振興会主催)の各賞が、次の通り決まった。文学賞の該当作なしは2006年以来。他の三つの賞は賞金各100万円。
【第54回吉川英治文学賞】該当作なし
【第5回吉川英治文庫賞】小野不由美さん「十二国記」シリーズ(新潮文庫)



松本清張「砂の器」新聞小説切り口に読解

の連載を経て、60年から読売新聞夕刊で書いた「砂の器」が、ベストセラー作家となっていく過程で重要な作品だったと指摘。登場人物が新聞を読む場面をたびたび描いたり、当時の新聞で報じられた科学技術を取り込んだり、清張が新聞読者を巻き込む仕掛けを施していたことも説いた。



山本幸正

中国・上海にある復旦大外文学院の副教授・山本幸正さんが「松本清張が『砂の器』を書くまで」(早稲田大学出版部)を刊行した。新聞小説を切り口に清張作品を読み解いた論考。東京で開かれた出版記念報告会で山本さんは、かつて全国紙で小説を連載できる作家は限られていた時代背景を説明し「清張はそ